

議事概要

1 会議の名称

令和7年度第2回長久手市古戦場公園再整備アドバイザー会議

2 開催日時

令和7年11月7日（金）午前10時から午前11時50分まで

3 開催場所

長久手市役所 会議室棟2階 会議室H

4 出席者（敬称略）

会 長 瀬口哲夫

委 員 桐原千文、服部 誠、水野智之、水谷栄太郎

オブザーバー 尾崎綾亮

事務局 暮らし文化部長 磯村和慶、同次長 高木昭信、
生涯学習課長 児玉 剛、課長補佐（文化財担当）平岡優一、
文化財係長 浅見 景、学芸員 山口万里佳、主任 森敬祐

5 欠席者（敬称略）

職務代理者 杉野 丞

オブザーバー 小野友記子

6 会議の公開・非公開

公開

7 傍聴者

なし

8 議題

(1) 長久手古戦場記念館の展示制作業務について

(2) （仮称）長久手市ふるさと館の展示設計について

9 問合せ先

長久手市 暮らし文化部 生涯学習課

電話 0561-56-0627

議事要旨

会長あいさつ

先日、小牧山に登り、復元された石垣を見てきた。名古屋城の石とは種類が異なるようで、徳川家康は織田信長に遠慮して名古屋城に持って行かなかったのかもしれない。長久手は、小牧と対になる戦いの舞台である。本日も、活発なご意見をお願いしたい。

<議題1 長久手古戦場記念館の展示制作業務について>

事務局 資料に沿って説明

会 長 本日欠席されているオブザーバーの小野調査官が、10月30日に長久手古戦場で現地指導された際の意見を、事務局から共有して欲しい。

事務局 小野調査官からは、4項目について指導いただいたので、順にご報告する。1項目目、シアター映像については5点ある。1点目、シナリオNo. 11の羽柴軍と織田・徳川連合軍の兵力差を伝える上で、兵力や石高は根拠が乏しく、数字で示すことが難しい。数字ではなく、各地で展開した局地戦の中心が長久手となったことを示せるとよい。小牧・長久手の戦いは、各地の勢力争いに影響し、また影響された戦いである。2点目、アテレコの際は、地名や人名のイントネーションが地元の人が聞いて違和感がないようにチェックするとよい。3点目、シナリオ上、地図が出ないため、位置関係が分かりにくい。舞台となる場所が移った際は、パンを使うなど、距離や位置関係が伝わるような演出を検討されたい。4点目、シナリオNo. 67に「未来」という言葉が出てくるが、当時の人々にはない概念であり、適切ではない。「後の世の」の方が妥当である。5点目、シナリオNo. 67は、地域とのつながりを示すパートであり、後世にどう伝えられたかを重く扱ってほしい。各大家に小牧・長久手の戦いの陣立書があるのは、江戸時代に評価されていたからである。長久手市民に、「江戸時代、全国の大名が軍学の基礎として学んだ戦いのあった地に住んでいる」ことが伝わるようなナレーションにするべきである。

2項目目、プロジェクションマッピングについて、ナレーター役を池田恒興とされたのはよい。池田元助の弟に、後に姫路城主となった

池田輝政がいる。現代に戻ったパートで「恒興の次男の輝政は、姫路藩初代藩主として姫路城を大改修し、池田家繁栄の基礎を築いた」など、姫路城につなげる工夫をすると、視野が広がる。

3 項目目、史跡めぐり A R について、庄九郎塚や武蔵塚で本人と写真を撮るという内容に違和感を感じる。墓ではないが、戦死地とされている場所で行うのは適切ではないではないか。尾張藩士が訪れている風景を表示するなど、史跡として残され、現代までつながっている過程を示すこともできるのではないか。

4 項目目、(仮称)長久手市ふるさと館の展示については、長久手古戦場記念館と連続性を持たせ、相互に連携できるように設計していただきたい、との御意見をいただいた。

会 長 小野調査官の御指摘はごもっともであるが、兵力は石高、農地の差である。例えば、信州と愛知県では、平野の面積が異なり、動員力も異なるはずだ。地形図を入れ、両国の平地面積を示すなど、何か客観的な根拠で兵力差を示す工夫ができないか。

委 員 地形だけで国力や兵力を簡単に示すのは、平地が全て田畑である保証もないため、大胆な展示となり、適切か疑問が残る。兵力は基本的に石高に基づいて算出されるが、地域によって資源の特性もあるため、簡単に平地の差だけで軍事力を論じるのは難しい。小野調査官の意見を受け止めるべきと考える。

会 長 地形図を入れて平地の差を視覚的に示すことで、兵力が大きいことを示せないか。直前の戦いで動員された兵力の比較などはどうか。

委 員 長久手の戦いの兵力については複数の説があり、当時の史料も多岐にわたるため、数字の表記は非常に難しいのではないか。

会 長 それならば、数字の表記をしないという方向で進めて欲しい。

委 員 マッピングのシナリオにある軍勢の数字の根拠は何か。

事務局 主に、参謀本部編『日本戦史 小牧役』を参考にしている。

会 長 『日本戦史』には、小牧・長久手の戦い全体の動員できたであろう兵力差の記述はないか。数字が示せないと、家康側が圧倒的に不利、といった切迫感が伝わりにくくなる。

事務局 個別の戦いに動員された数は書いてあるが、動員できたであろう全体の勢力の数字は見つけられなかった。

- 委 員 地名のイントネーションは、地域差だけでなく年代による違いもあるため、どちらに合わせるかは難しい問題である。
- 事務局 地元の方が聞いて違和感がないようにチェックしたい。武将が語る部分は、若干高めの年代の方のイントネーションとしたい。
- 委 員 空気環境について、竣工後すぐの測定値が高いのは当然として、今後も継続的に計測が必要である。特に酸性・アルカリ性の簡易測定は手軽であり、月 1 回程度の計測を求められていた時代もある。収蔵庫に資料を入れる時期も、数値を見ながら調整されたい。
- 事務局 空気環境については、展示ケースを含め、計測していく。
- 委 員 閉館後に通電を停止するスイッチは設置されているか。また、展示室のハロンガス消火設備はどのように運用するのか。
- 事務局 展示室は、リレーリモコンスイッチ方式で、室単位で通電停止が可能である。収蔵庫はリレーリモコンスイッチ方式ではない。ハロンガス消火設備は、開館中は手動、夜間は自動に切り替える運用を予定している。
- 委 員 ハロンガス消火設備は誤作動リスクがあり、長期運営を考えると慎重な検討が必要である。

<議題 2 （仮称）長久手市ふるさと館の展示設計について>

事務局 資料に沿って説明

古民家の復元は、「明治期に長久手へ移築された時点」を基準とした間取りで行う。くども復元予定であるが、現行の法令を遵守し、現代工法を併用する。

委 員 長久手古戦場記念館と（仮称）長久手市ふるさと館の役割分担を明確にする必要がある。また、ふるさと館での活動方針を定めて資料の収集方針を考えられると良い。体験のための道具は損耗が前提であり、保存資料と分けて運用すべきである。寄贈いただく場合は、あらかじめ寄贈者に了解を取っておくとよい。

委 員 収蔵庫が 1 階にあるのは適切でない。水害のリスクが高いため、本来は 2 階に配置するのが望ましい。収蔵資料の運搬や保管方法を再検討すべきである。収蔵庫と展示の割合を見直し、保存機能を強化する必要がある。また、農具等をすべて館に持ち込むのは非効率であり、運

用計画を精査するべきである。

事務局 敷地に史跡地が含まれており、建築面積を増やすことは難しい。また、第1種低層住居専用地域であり10mの高さ制限もある。限られた条件の中ではあるが、再検討したい。

委員 古民家は、当時の暮らしを体験する場とされているが、ふるさと館内の体験との違いは何か。

事務局 ふるさと館内の体験は「手軽に触れる体験」を、古民家は、予約制・ワークショップ型でより深い体験を提供したいと考えている。

会長 この設計は見直した方が良い。理由は、農家である古民家は、家の前の空間が重要である、という視点が欠けているためである。休憩室兼ミニ企画展示室やエントランス通路を取り払い、古民家の前に作業用の空間、柿の木や生垣といった、屋外と屋内を一体的に感じさせる空間を創出すべきである。視覚的な配慮としても、休憩室兼ミニ企画展示室を古民家から見たときに、現代建築ではなく農家の雰囲気を感じられる設計にしなければ、古民家を活かさない。動線としても、まず古民家で農家の生活の様子（道具など）を見てもらい、「もっと詳しく知りたい」と思った人が展示室に来るような動線にすべきである。

会長 室名は、所有者へのヒアリングだけでは不十分であり、農村建築学会の分類などを参照し、説明を付けるべきである。

委員 住まい手がその場所をどう呼んでいたかが大切である。補足説明は加えると良い。「勝手」は「食事室」と説明するのが適切である。「台所」という表現は現代では違和感を覚えるため、生活の変遷が分かる展示も含めて検討されたい。

事務局 室名は、旧加藤家住宅が掲載されている愛知建築士会著『愛知の民家』を基にしているが、元の所有者へも再確認する。

会長 事務局においては、本日の意見を参考に、（仮称）長久手市ふるさと館の修正設計を進め、長久手古戦場記念館の展示も完了させて欲しい。他に意見がなければ、以上で令和7年度第2回長久手市古戦場公園再整備アドバイザー会議を終了する。